

分科会名称：国際医療分科会

分科会長氏名；瀧澤 清美

分科会長所属；NPO 法人地域診療情報連携協議会

分科会長連絡 E-mail；kiyomi@shin-ren.net

1. 分科会の目的

在住外国人や来日外国人など、言葉の壁のある患者が安心して医療を受けられるための、啓発、臨床研究、事例収集と情報交流の活動を行う。

2. 令和 7（2025）年度活動実績と成果

本年度は、外国人労働者および在留外国人に対するメンタルヘルスケアの向上を目指し、分科会員である圓座直子氏（株式会社円未来）および島田祥士氏の協力のもと、「ぐんま DX 技術革新補助金」を活用した「多言語対応ストレスチェックシステム（EASY STRESS CHECKER：ESC）」の社会実装に向けた研究・開発を推進しました。ESC デバイスの POC（概念実証）作成と精度検証入手性の高い最新コンポーネントを用いた回路設計の全面刷新を行い、小型軽量化を実現したプロトタイプを開発しました。標準的な医療用心電計との比較実験において、平均心拍数および RR 間隔の抽出精度が実用レベル（誤差範囲内）であることを実証しました。多言語対応および AI 解析アルゴリズムの実装 132 言語に対応したストレス問診機能を開発し、外国人スタッフによる検証を通じて誤読のない UI/UX を構築しました。生体信号から自律神経バランス（LF/HF）や回復力（RMSSD）を算出する独自の AI アルゴリズムを開発し、客観的なストレス可視化を実現しました。オンライン診療・通訳基盤との連携株式会社 C&T の「remote-trans」エンジンおよび WebRTC 技術を統合し、医師・患者・通訳者の多地点間接続による遠隔カウンセリング・診療支援フローを確立しました。

3. 令和 8（2026）年度活動計画

令和 7 年度に確立した技術基盤および知見を活かし、次年度は大規模な実証実験を通じたエビデンスの蓄積と、学術的発信に注力します。多施設共同実証実験の実施医療法人民善会グループが運営する 30 箇所の拠点をフィールドとして、職員および利用者を対象としたストレスチェックの実証運用を実施します。「主観（多言語問診）」と「客観（バイタルデータ）」の両面からメンタルヘルスを管理する標準プラットフォームの有用性を検証します。学術総会における研究報告上記 30 拠点での運用を通じて得られたビッグデータを相関分析し、メンタル不調の予兆検知における有効性をまとめ、令和 8 年度日本遠隔医療学会学術総会にて成果報告を行います。グローバル展開に向けた基盤強化 PCT 国際出願済みの知財を活用し、東南アジアを中心とした海外拠点を持つグローバル企業への導入モデルを策定します。

